

# 東奥日報

2017年(平成29年)6月9日 金曜日 (16)

## 種差の植生など研究

八工大 八高専 若手12人が成果報告

八戸

県工業技術教育振興会(理事長・長谷川明八戸工業大学長)はこのほど、「2016年度若手研究者研究助成成果報告会」を八戸市の八戸工業大で開いた。

同会は本県の工業振興などを目的に毎年度、研究者への助成を行っており、報告会には16年度の助成対象となった同大と八戸工業高等専門学校(高専)の研究者12人が臨んだ。同大バイオ環境工学科の鮎川恵理准教授は、同市の種差海岸の植生管理に向け



た植生図作成の取り組みについて発表した。

同准教授は同海岸について、多様な種が存在し、関東方面では高山地帯で育つ種がみられるほか、南限と北限の植物が混在する「興味深い土地」と説明。「植生を維持していくためにはもっと基礎情報が必要」などとして昨年実施した調査の結果などを報告し「今後さらにエリアを広げて植生

若手研究者が成果を発表した報告会

に合わせた管理方法を検討する」と述べた。同大システム情報工学科の伊藤智也准教授は、県や八戸市が公開している「オープンデータ」を活用した人材育成について報告。学生とともに地域の課題解決や生活向上のためのアプリ

開発などに取り組みたいと述べた。このほかにも津波のエネルギーを低減させる防潮堤、橋りょうの維持管理のためのロボット開発など多様な分野での研究成果が報告された。

(岩村史生)

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」